

県民と郷土を結ぶ総合博物館

青森県立郷土館だより

News from the Aomori Prefectural Museum

通巻170号 平成30年(2018)3月16日 Vol.48 No.3

青森県立郷土館

営業再開

平成30年 4月1日 日 ~

| 開館時間 | 午前9時~午後5時 入館は午後4時半まで
| 観覧料 | 一般310円 高校・大学生150円 中学生以下無料

4月1日は観覧無料!

収蔵庫の空調設備改修工事のため昨年8月末より長期休館しておりました。営業再開の郷土館にぜひお越しください。

しゃこちゃん



昆虫、岩石、植物…棚からあふれる資料

自然資料には、岩石・化石などの地学標本と剥製・昆虫・植物などの生物標本があり、郷土館に登録されている資料10万点の約44%を占めます。その多くは、当館で行った県内の自然調査によって得られたものです。最も数が多いのは昆虫標本で、専用の箱に収められています。ただ、昆虫は体が小さく1箱に数10～100点ほどの個体が入ることから、寄付されたものを含め約2,000箱に上る昆虫箱には相当な数が収められていることとなります。このほかに登録されていない参考資料があり、こちらもかなりの数量があります。

今回の収蔵庫空調改修工事に伴い、これらの資料をすべて庫外に運び出しました。中でも岩石標本はとても重く、中には20kgを越えるものもあり運搬に苦労しました。それらの岩石は棚の奥から数10年ぶりに見つかり、初めて見た時にはその大きさに驚きました。ほかに、古いガラス容器に入った液浸標本の中にはガラスが劣化しているものがあり、割れないように慎重に運ぶ必要がありました。資料の搬出先は主に自然展示室でしたが、およそ1ヶ月の搬出期間の後、展示室内は資料であふれるような状態になりました。

展示室に搬出した登録資料は台帳との照合を行い、収納箱への入れ替えを行うなど整理作業を行いました。また、参考資料の内容の把握にも努め、今後の活用方法を検討しました。

(学芸課副課長 島口天)



昆虫箱と液浸標本のガラス容器



重さ20kg以上の岩石標本

昔の道具、そのすがたは千差万別

当館では各収蔵庫の改修作業にともない、すべての資料を一度搬出し、改修工事終了後に、再度収蔵し直す作業を実施しました。

そのなかで民俗分野の資料は、衣食住、農業や漁業、山仕事、職人の仕事、春夏秋冬の行事、お祭り、冠婚葬祭など、わたしたちの暮らし全般に関わる資料です。当館が開館以来、県内各地で収集してきた民俗資料は、まことに膨大で多彩です。例えば、かつて囲炉裏の上から吊していた自在鉤だけみても、工業製品のような統一規格がなく、それぞれの土地の季候や暮らしに応じて手作りしたものが多かったため、かたちも大きさや重さも材質もそれぞれ異なります。他にも、長さ4メートルを越す漁具もあれば、手のひらに収まるほど小さな石仏もあります。ワラで編んだ履き物やボドと呼ばれる厚めの古い衣服、紙製の御幣などの柔らかい資料もあれば、固く重い鉄製の農具や、漁で使うガラス製の浮き玉等もあります。

このような千差万別のすがたをした膨大な民俗資料群を、限りあるスペースの収蔵庫内の四角い空間へ、いかに効率的に収納し、大事に保存、管理していけばいいのか。日々、各民具達を見つめて模索しながらの作業でした。

(主任学芸主査 小山隆秀)



さまざまなかたちをした自在鉤

作品から素材へ ～ 鈴木作品整理雑感 ～

美術分野ではこの休館期間中、主に鈴木正治（1919—2008）の作品整理を行っています。鈴木は青森市生まれの彫刻家・画家で、2014年にその作品約2,000点が親交の深かった個人から寄贈されました。

鈴木は素材を生かし切った作家なのかもしれない。採寸に手を動かしながら立て続けにその作品を見ていると、こんな思いを抱きます。1998年6月、鈴木はアメリカの彫刻家集団カーヴィング・スタジオの招きで、バーモント州ウエスト・ラトランドで制作しました。このとき高さ約2メートル、幅約4メートルの巨大な大理石に挑みますが、鈴木は日本ではなかなか手に入らないこの素材をととても気に入ったそうです。そのためか、彫る過程で無数に生まれた破片にも絵を描きました（写真1）。描画はラフなもので、制作の合間、日記を書くようにアメリカの思い出をその地の石に記したのでしょう。

鈴木は一本の細い桜の枝すらも彫りました。枝を短く切断し、そのひとつひとつに頭と胴体を与えています（写真2）。単体ではあまりにも頼りないこの作品も、並べてみると元は大きな木の一部であったという事実に気がつきます。作品を見て素材に還るといふ鑑賞体験は、鈴木作品ならではのものかもしれません。

2019年の生誕100年の際には、今回の整理の成果を何らかの形で発表できればと思います。

（研究員 和山大輔）



（写真1）破片に描かれたスタジオ



（写真2）枝から生まれた無数の人がた

より一層の“わくわく”を

教育普及分野は、休館中の館内作業として主に「わくわく体験ルーム」の体験資料の整理及び修繕を行っています。その作業が終わるといよいよ4月からの再開に向け、資料の展示・配置作業に移ります。利用者が見てみたい、触れてみたい、試してみたいなど、より一層わくわくしていただけるような体験ルームを目指します。特に目玉となるのが、化石コーナーの新設です。ティラノサウルスやエドモントサウルスなど、恐竜の歯や脊椎の化石、マンモスの歯の化石など状態が良いものを揃えました。中には実際に手に取って確かめることができる化石もあります。また、既存の資料も配置や展示を工夫していく予定です。4月からの「わくわく体験ルーム」にどうぞご期待ください。

ところで、休館中も「出前授業」は実施しています。資料整理作業の都合で、ある程度曜日が限定されていますが、概ね例年通りの実施件数を維持しています。館内観覧ができない分「出前授業」の役割はむしろ多くなっているとも言えます。依頼が多いテーマは小学校3年生の社会科「古い道具と昔の暮らし」です。郷土館が誇る豊富な資料とわかりやすい解説で、おかげさまで多くの好評をいただいております。その他の単元・学年の内容も充実していますので、学校関係者の方は是非

非ご検討ください。来年度の申し込みは4月から受け付けます。お待ちしております。

（研究主査 福士道太）



展示の日を待つ化石



出前授業の様子

青森県立郷土館

平成30年度 年間行事予定



2018

4

イベント

ゴールデンウィーク特別企画展示

4月28日(土)－5月6日(日)

5

企画展

新収蔵×再発見展2018

5月25日(金)－7月1日(日)

6

7

TTHAグループ主催

岩合光昭写真展「ねこの京都」

7月14日(土)－8月26日(日)

8

9

特別展

コロコロ・STONE

－あおもり石ものがたり－

9月6日(木)－10月24日(水)

10

11

TTHAグループ主催

第86回 東奥児童美術展

11月2日(金)－11月11日(日)

11

企画展

新説！白神のいにしえ

－津軽ダム建設に伴う発掘調査成果とともに－

11月21日(水)－1月20日(日)

2019

1

TTHAグループ主催

第8回 東奥児童書道展

2月8日(金)－2月17日(日)

2

3

◇その他事業◇

- 土曜セミナー
- ミュージアム探検隊(土日祝日・春休み期間)
- 郷土館クイズラリー(夏休み・冬休み期間)
- 自然観察会(7/8・10/7)
- 夏休みこどものくに(7/22・29)
- 授業に役立つ博物館研修(8/3)
- 博物館実習(8/27～31)
- あおもり街かど探偵団(9/29・10/6)
- 冬休みめぐり回し大会(1/6)
- 出前授業・移動博物館・講師派遣事業(随時)

◇無料開放日◇

- 4/1(営業再開記念)
- 5/26・27(国際博物館の日)
- 10/27・28(東北文化の日)

◇休館日◇

- 5/24 7/2・13 8/27 9/5 10/25
- 11/1・12・20 12/29～1/3 1/21 2/7・18
- 3/14～3/20

◇開館時間◇

- 4/1～4/27 11/2～3/31
- 9:00～17:00
- 4/28～10/31
- 9:00～18:00

◇常設展観覧料◇

区分	3～12月	1・2月
一般	310円(250円)	250円(200円)
高校・大学生	150円(120円)	120円(100円)
中学生以下	無	料

- ()内は20名以上の団体料金。
- 障がいのある方は免除。
- 特別展の料金は、直接お問合せください。

◇交通機関◇

- JR青森駅より徒歩約20分
- 市営バス JR青森駅から
 - 国道経由
 - NTT青森支店前(または市役所前)
 - 下車、徒歩約8分
 - 新町経由
 - 新町2丁目下車、徒歩約8分
- 市民バス JR青森駅から
 - 青柳線
 - ワシントンホテル前下車、徒歩約1分

